

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3270200110		
法人名	社会福祉法人 せんだん会		
事業所名	グループホーム かがやきの園		
所在地	島根県安来市安来町960番地1 (電 話) 0854-23-2252		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】(H19年 10月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4人, 常勤換算6.0人	

(2)建物概要

建物構造	RC(鉄筋コンクリート) 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4)利用者の概要(10月 20日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.25 歳	最低	66 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	安来第一病院、杉原医院、吉田歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部であるが、住宅地とは少し離れた中海側の新興地にあり、同系の特養ホーム、ケアハウスや障害者援護施設、また医療機関等の医療・福祉ゾーンの中に、1階は通所介護、2階に認知症通所介護と隣り合っかがやきの園が在る。ホームは終末の場として考えるのではなく「本人がありのまま輝ける生活の場」として支援することを目的としている。日々の生活は利用者主体を基本とし、利用者一人ひとりの生活スタイルの継続を目指し「その人らしい生活」が出来るように支援している。ちぎり絵などの創作活動にも熱心に取り組み、近くのショッピングセンターなどに展示し利用者の自信回復や地域への啓発などに繋げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善すべき3項目は改善計画シートを使い解決に取り組み、すべての改善が行われた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者、職員全員で点検を行い話し合っサービスの上に取り組んでいる。例えば、朝風呂に通所介護の浴室を使う等の実践につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回ホームでの取組みや認知症への対応事例を報告したり、自己評価の取組み結果を話し合っている。構成メンバーは地域包括支援センター職員、市婦人会長、利用者家族とホーム職員で、市の職員や近隣自治会関係者の参加がまだない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には月1回の訪問をすすめ、訪問時には利用者の様子や健康状態を報告し、家族等から意見を聞くようにしている。ケアポートやすぎの機関紙「えがお新聞」(毎月)とホームの季刊紙「かがやき」を発行し、ホームの生活の様子等を主に写真をもちいて報告をしている。家族の訪問時に運営推進会議への参加、意見箱や相談窓口として第三者委員も設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは市中心部にあるが、新興地で住宅地からは離れている。近くの小・中学校のボランティアや実習の受け入れ、音楽、ちぎり絵、書道等のボランティアの来訪もある。また、併設する通所介護の利用者と一緒に行事を行うなど交流を図っている。地域の祭りに参加している人もいる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケアポートやすぎ(2種の通所介護事業とホーム)の理念をホーム内に掲示している。地域密着型サービス移行に伴い理念を職員間で改めて捉え返し「私らしく・貴方らしい生活の継続、豊かな心で・ゆったりと、ありのままに生活できるように私たちは努めます。」の継続を決めた。理念を「ケアの方針」として掲示もしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を職員間で論議し、理念とする「生活の継続」や「私らしい生活」の実現、例えば利用者のちぎり絵などの創作品を近くのショッピングセンター、郵便局、銀行などに展示し、地域との連携を強め、利用者の楽しみや自信につなげることを重視している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは市中心部にあるが、新興地で住宅地からは離れている。近くの小・中学校のボランティアや実習の場として、又音楽、ちぎり絵、書道等のボランティアを受け入れている。併設する通所介護利用者と行事を一緒に行うなどの交流を図っている。地域の祭りに参加している人もいる。	○	立地条件は厳しいが、隣接するケアハウスや特養ホームと連携して、利用者相互の交流をする他に、運営推進会議を活用し近くの町内会とも積極的な関わりを持ってほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者、職員全員で点検を行い、話し合っサービス向上に取り組んでいる。例えば、朝風呂に通所介護の浴室を使う等の実践につなげている。前回の外部評価の改善すべき3項目は、改善計画シートを使い解決に取り組み、すべての改善が行われた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回ホームでの取組みや認知症への対応事例を報告したり、自己評価の取組み結果を話し合っている。構成メンバーは地域包括支援センター職員、市婦人会長、利用者家族とホーム職員で、市の職員や近隣町内会関係者の参加はまだない。	○	近隣の町内会との関係をつくる努力もされているが、その役員や民生委員、また第三者委員、市職員の出席を求めて構成メンバーを拡大するとともに、議題等も更に工夫し広がりのある会議にしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が運営するケア会議に参加し、意見や情報交換をしている。必要時、電話やファックスによる連絡等も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時に利用者の健康状態を報告し金銭の出納報告と確認をしてもらっている。利用料や小遣い金は毎月家族が訪問時に持参している。ケアポートやすぎの機関紙「えがお新聞」(毎月)とホームの季刊紙「かがやき」を発行し、ホームの生活の様子等を主に写真をもちいて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に近況を話したりし、家族などの意見を聞くようにしている。運営推進会議への参加、意見箱の設置、相談窓口として第三者委員も設けている。	○	家族等の意見や苦情を例えば第三者委員等の多様なルートや方法で聴き取る仕組みは出来ているが、その周知を積極に行ってほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、事業所間での異動も最小限にとどめ、馴染みの関係を大事にしている。新任者には、利用者との馴染みの関係ができるようにしたり、また夜勤の開始も2、3か月経過後にするなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人最低年1回は外部研修参加をしている。法人としての研修体系もあり、年1回は「研究発表会」も行われており、法人内の同種事業所間で交換実習研修もしている。管理者は職員と個人面接を行い、職員個々のスキル向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催のケア会議や研修会に出席し、情報交換をしている。また、しまね小規模ケア連絡会に加入し情報の収集を行い、法人の同種事業所間での現場実習による交流も行い、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の段階でホームの見学をすすめ、ホームの様子を実感できる機会をつくっている。ホームからも入居前に訪問調査を行い、生活支援について本人、家族と話し合っている。入居後も家族や知人の訪問をすすめ、徐々に馴染めるよう工夫をしている。通所介護からホームの利用になった人もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の知恵やものを大切にすることを利用者から教わったり、お互いが意見を出し合い、共に支え合う関係を大事にしている。昼食時に利用者が語る「亥のこさん」の祭りでわらを束ねて地つきをして家を周り、亥のこ餅を食べる話を、若い職員は聴いていた。利用者もお互いを思いやり仲良く生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活の流れを尊重している。現利用者の殆どが自分の意思を表出でき、嫌なことは拒否できる。家族や関係者から本人の暮らしの情報を得て、その実現を図っている。近くのショッピングセンターへ買い物や会食へ2、3人で出かけたり、起床も就寝も各々である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者とその家族も参加し、計画作成担当者をはじめ職員全員が日々ケアのかかわりの中で把握した課題に対する意見を持ち寄り、本人のよりよい暮らしになるよう介護計画を検討作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間(3ヶ月)終了前には再評価を行い、計画を見直しをしている。状態等の変化があれば随時に見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況により通院などの送迎支援も柔軟に行っている。また、併設施設の設備・機能の共用(例えば風呂、調理場や車両等)することにより、満足度の高い支援を行っている。通所介護に来る地域の知人との交流もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医に継続した受診となるよう支援している。体調の変化時には往診も受け、安心できる体制にしている。タクシーを利用して一人で受診する人や、入居後かかりつけの歯科医院で入れ歯を調整した利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの運営方針として、重度化や終末期への対応を考えてはいない。本人の状態が変化した場合は、本人や家族とかかりつけ医や看護師等との話し合いを行い、その都度方針を立てることにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報開示の同意を得ている。生活面では、居室訪問時は本人の了解を得る等、言葉かけや対応に注意をしている。個人の洗濯物は、人目に晒したくない気持ちに配慮して、各自が自室に干すように変更したり、入浴の支援は意識して同性が行うことにしている。個人の話を部外では口にしない約束もある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活スタイルや1日のリズムを尊重し「自分流の生活」が継続できるように支援している。例えば起床時間、就寝時間も自分流に、また入浴も朝にする人や階下の通所介護へ知人に会いに出かける人など、自発的な活動やペースを大事にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はホームで調理員が、昼と夕食は1階の調理室で調理したものを利用者が盛り付けたり、汁物や簡単な副食とおやつは職員と一緒に作り、一緒に食事をして楽しんでいる。畑で収穫した野菜等の利用や食材の買い物も一緒に行き、時には外食や出前をとっている。後片付けは利用者が率先していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望にあわせた入浴を支援している。夜間の入浴希望はないが、最近は朝風呂を希望する人もいて1階の通所介護の浴室も利用している。入浴しない人には清拭をしている。深かった浴槽は底上げし一人で安心して入浴できるように改善もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りやその片付け、部屋の掃除、花や野菜の水遣りなど個々の役割の他に梅酒やちまき、干し柿、干し大根づくりなど、これまでしてきた特技や知恵を生かせる機会をつくっている。習字、ちぎり絵、音楽等の趣味活動の他、訪問時には写経や塗り絵を楽しむ姿があった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの畑やひとり一人の状態に合わせてホーム周辺の散歩、希望を取り入れ近くのショッピングセンターへ月に1度は2、3人単位で買い物に出かけている。墓参りや家族の協力を得て盆や正月を中心に自宅訪問など屋外に出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関共に鍵はかけていない。自分で自室の施錠をする人が一人あり、また風呂場は普段は施錠している。一人で外出する人には、車の往来もあり危険なため引き止めるのではなく、一緒について行くようにしている。近くの警察署には開設時から協力依頼をし、理解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路・場所の確認や消火器訓練を行っている。周りの法人施設や公共事業所等との連携も図られ、万一の場合の支援・協力体制もできている。	○	運営推進会議に近隣自治会役員の参加も求めて、災害時の協力支援を働きかけるとともに、地域への可能な支援をすることも検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立内容は併設事業所の管理栄養士に相談しながら行っている。水分確保の重要性を職員は認識しており、1500ccを目安に支援している。糖尿食の人もいるが、茶碗は個人別にして量加減をしたり、本人の自覚と協力を得られるように支援している。大まかな摂取量は記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階に認知症通所介護を併設しているが、壁や職員室で明確に区画している。広いホールは食堂とくつろげるスペースとに簡易な目隠し仕切りで区分している。明かりも音も不快なものはなく、居室の窓を開放し外気を取り入れている部屋もあり、壁には利用者のちぎり絵や書等の作品が掲示され居心地の良い空間作りができていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室が半々あるが、どちらもベッドの使用ができる。居室には洗面所とトイレが設備されている。和室でコタツを使う人もいる。使っていた家具や鏡、写真などを持ち込み自分なりの空間をつくるように支援している。下着などの洗濯物が人目に晒されないよう物干しも用意されている。		